

## 緑化樹木の病害虫診断<11>

### 緑化樹の病害虫診断(6)

# 奇形——もち病てんぐ巢病 およびこぶ病



小林 亨夫

(林業試験場樹病研究室長・農博)

公回は侵された植物が、病原菌の出すホルモン様物質のため、幹・枝・葉・芽・花などが部分的あるいは全面的に増大や増生をおこして、正常なものと著しく変わった形になる病気について述べる。

### もち(餅)病

もち病は春に新葉が展開してまもなくのころに発生する。花・芽・若葉の一部ないし全体が大きく膨んで、はじめ淡緑色光沢を有するが、まもなく表面が白い粉に包まれ、あたかも餅がふくらんだように見えるところからこの名前がある。もち病菌属という一群のカビ(糸状菌)の仲間によっておこされる病気で、ツバキ・サザンカ・ツツジ

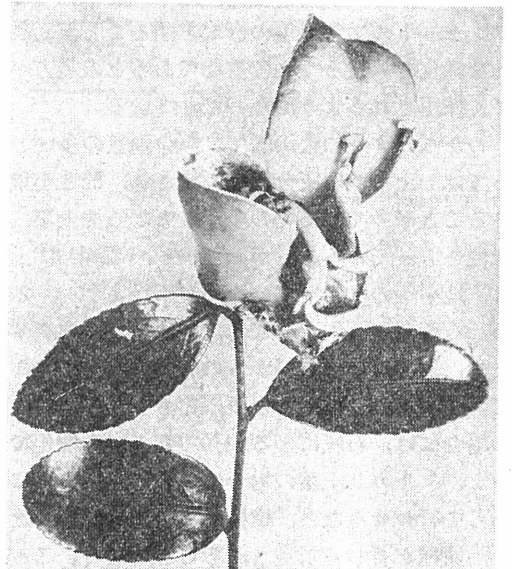
・シャクナゲ・クロキ・アセビ等の観賞植物によく発生する。(写真—1・2)

防除法としては、まだ白粉におおわれぬうちに病患部を摘去することが翌年の伝染源を除くことになる。春先の発病時にマンネブ剤・ジネブ剤などの有機イオウ剤を1~2回散布する。

### てんぐ(天狗)巢病

幹や枝のある部分から沢山の不定芽を生じ、ついで小枝が叢生してこんもりした小枝の塊りが出来る。このようなものを古くてんぐ(天狗)の巢と呼んだところからこの名がついた。てんぐ巢病の原因はカビ(糸状菌)によるもの、ウイルス(マイコプラズマ)によるもの、また非伝染性の遺伝的突然変異によるものなどさまざまである。

緑化樹として最も被害の大きいのは何といってもサクラのてんぐ巢病である(写真—3)。この病気が発生すると次々に病巢が増え、病巢のある枝は花が咲かない上にふつう4~5年で枯れ、枯れたあとからは腐朽が入り小樹の退廃が促進する。この病気の病原菌は糸状菌(カビ)のタフリナ属菌で、その仲間には他にもカンパ・ハンノキにてんぐ巢病をおこし、また葉ぶくれ病(ポプラ・ナラ・カシ類・シイノキ・ハシバミ)、ふくろ実



写真—1 サザンカのもち病(新芽・幼茎・若葉が異常に膨らんで表面白粉におおわれている)

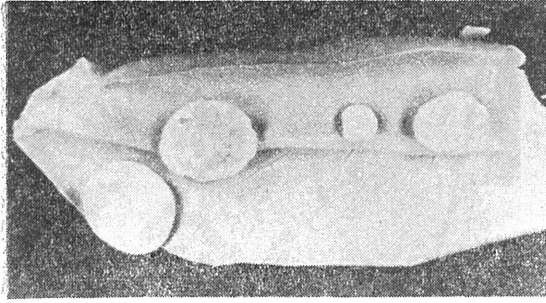


写真-2 シャクナゲ玉もち病（葉の上に球形の膨らみをつくってその表面が白粉状になる）

病（ヤマナラシ・シウリザクラ・ミヤマザクラ）などいずれも病植物の奇形をおこす（写真-4）

サクラのてんぐ巣病の防除には病枝の切除と、切除あとへの防菌剤ないしゆ合促進剤（チオファネートメチル剤、硫酸オキシキノリン剤）の塗布を行う。すでに沢山発病している樹では少なくとも3年は続ける必要がある。

### こぶ（瘤）病

枝や幹の一部が球形かそれに近い形に膨らむ病



写真-3 サクラ（ソメイヨシノ）のてんぐ巣病（こんもりとした天ぐの巣が沢山できる）

気をこぶ病といい、細菌によるもの（フジ、サクラ）、糸状菌によるもの（マツ）、原因不明のもの（ナラ等）がある。

マツのこぶ病は（写真-5）、この診断シリーズの2（3月号）で述べたさび病菌の仲間による病気で、マツとブナ科（ナラ、クヌギ、カシワ、アベマキ等）の樹木を往復して生活史を繰返している。マツには若い当年生の緑色茎枝に侵入、翌年発病した小さいこぶが、樹の生長とともにしだいに大きくなるもので、風により折損し易い。防除には中間宿主となるブナ科の樹木と一緒に植えないこと、まき付け苗木に対しては秋9～10月にマンネブ剤またはジネブ剤を10日おきに3～4回散布する。植える時には枝幹にこぶを持たない樹を選ぶように注意する。

フジのコブ病は（写真-6）若い緑色茎枝の傷から侵入発病する。小枝はこのために枯れ、したがって花房の数が減少する。枯れないものは樹の生長とともに大きくなる。大きくなった粗造なコブの凹みの部分は害虫の産卵場所となり、虫害を併発して枯れるものもある。まだ確実な防除法はないが、コブを削ってたいらにしてから防菌剤（チオファネートメチル剤）を塗布する。抗細菌性の抗生物質（ヒトマイシン等）を塗布するのも良いであろう。

以上6回にわたって緑化樹の病害の診断と防除の要点について述べてきた。連載期間の関係もあり病害をグループ別に分けて概説したので、個々

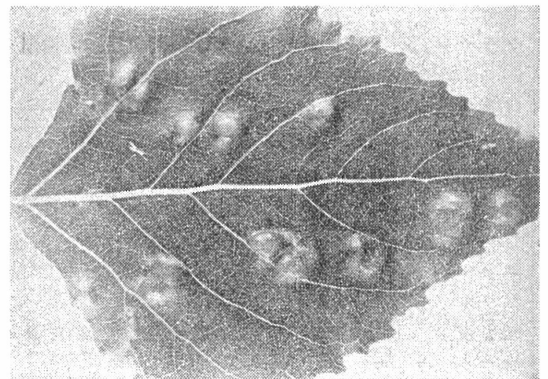
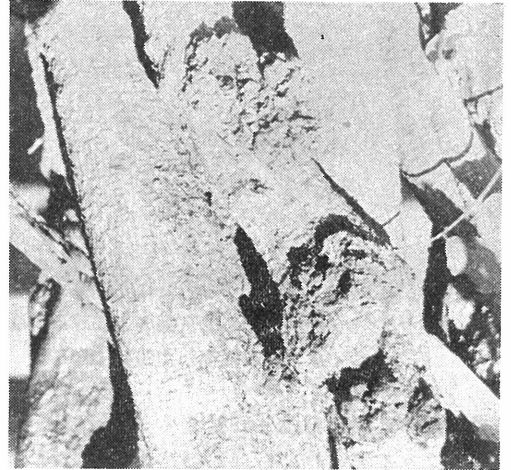


写真-4 ポプラの葉ぶくれ病（葉表に半球状のふくらみを生ずる）



写真—5 アカマツのこぶ病 (こぶ病にかかる樹は1本に沢山のこぶを生ずることが多い)



写真—6 フジのこぶ病

の樹種すべてを網らすることはできなかった。主な樹種ごとの病虫害については同じ著者らで別に「林業と薬剤」誌の39号(1972年3月)から54号(1975年12月)までに解説してあるので、必要な方はそちらを参照していただきたい。

最後に今日まで6回のシリーズに登場した樹種ごとの病害リストをあげて終りとする。樹種はアイウエオ順とし、括弧に載った回を入れた。

樹種	病名
アオキ	斑点病(3), 胴枯病(4)
アカメガシワ	斑点細菌病(3), 褐色こうやく病(4), 灰色こうやく病(4)
アセビ	もち病(6)
アラカシ	うどんこ病(2), 円斑病(3), 白斑(3), すず葉枯病(3)
イタチハギ	白絹病(1), 褐斑細菌病(3)
イヌエンジュ	さび病(2)
イヌシデ	すず紋病(3)
イヌマキ	白葉枯病(3)
ウバメガシ	うどんこ病(2)
エゾマツ	こうやく病(4)
エノキ	黒粒枝枯病(4)
エンジュ	炭そ病(3)紅粒がんしゅ病(4)
オウシュウトウヒ	こうやく病(4)
カイヅカイブキ	さび病(2)
カイドウ	赤星病(2)

カエデ	褐色円星病(3), 黒紋病(3), 紅粒がんしゅ病(4), 胴枯病(4), 粗皮病(4)
カキ	こはく色こうやく病(4)
カシ類	うどんこ病(2), 黄色胴枯病(4), 白点胴枯病(4), 葉ぶくれ病(6)
カジノキ	褐色こうやく病(4), 灰色こうやく病(4)
カナメモチ	褐斑病(3)
カマツカ	赤星病(2)
カラスザンショウ	角斑病(3)
カラマツ	レウコストマ胴枯病(4), 先枯病(4), 立枯病(5), 微粒菌核病(6)
カンパ類	ならたけ病(1), 黒粒枝枯病(4), 黄色胴枯病(4), キトスポラ胴枯病(4), てんぐ巢病(6)
キリ	ふらん病(4), 枝枯病(4)
キンモクセイ	褐色こうやく病(4)
クスノキ	白紋羽病(1), 炭そ病(3)
クチナシ	褐色円星病(3)
クスギ	ならたけ病(1), 葉枯病(3)
グミ	斑点病(3)
クリ	ならたけ病(1), 白紋羽病(1), 胴枯病(4), 白点胴枯病(4)
クルミ	炭そ病(3), 白かび葉枯病(3), 褐色枝枯病(4)
クロキ	もち病(6)
クロバイ	斑紋病(3)
ケヤキ	ならたけ病(1), とうそう病(3), 褐斑病(3), 紅粒がんしゅ病(4)

コウゾ	とうそう病(3), 褐色こうやく病(4), 灰色こうやく病(4)	ナンテン	紅斑病(3)
広葉樹	環紋葉枯病(3), フォモプシス胴枯病(4), フォモプシス枝枯病(4)	ニセアカシア	炭そ病(3), 輪紋病(3), 輪斑病(3)
コナラ	円斑病(3)	ニレ	紅粒がんしゅ病(4) くもの巢病(5)
ゴヨウマツ	葉さび病(2), 立枯病(5)	ネズミサシ	黒斑病(3)
ザイフリボク	赤星病(2)	ネズミモチ	さび病(2)
サクラ類	ならたけ病(1), 穿孔病(3), 穿孔褐斑病(3), 褐色こうやく病(4), 黒色こうやく病(4), 紅粒がんしゅ病(4), デルメア枝枯病(4), てんぐ巢病(6), こぶ病(6)	ネムノキ	斑紋病(3)
ササ類	黒やに病(3)	ノリウツギ	紅粒がんしゅ病(4)
サザンカ	炭そ病(3), もち病(6)	ハギ	ならたけ病(1)
サワグルミ	黒粒枝枯病(4)	ハコネウツギ	さび病(2)
サワラ	さび病(2)	ハシバミ	灰斑病(3)
サンショウ	褐色こうやく病(4), 灰色こうやく病(4)	ハゼノキ	葉ぶくれ病(6)
シイノキ	黄色胴枯病(4), 葉ぶくれ病(6)	ハナズオウ	とうそう病(3)
シウリザクラ	ふくろ実病(6)	ハナミズキ	角斑病(3)
シダレヤナギ	暗色枝枯病(4)	ハンテンボク	とうそう病(3)
シデ類	黄色胴枯病(4)	ハンノキ類	炭そ病(3), 斑点細菌病(3)
シナノキ	紅粒がんしゅ病(4)	ヒイラギ	黒粒枝枯病(4), キトスポラ胴枯病(4), 芽枯病(4), てんぐ巢病(6)
シャクナゲ	葉斑病(3), もち病(6)	ヒイラギナンテン	さび病(2)
シャシャンボ	斑紋病(3)	ヒガンザクラ	炭そ病(3)
シャリンバイ	さび病(2), 白斑病(3), 紫斑病(3)	ヒメコマツ	黒色こうやく病(4)
シュロ	炭そ病(3)	ヒメユズリハ	葉さび病(2)
シンジュ	輪紋病(3)	ヒロウ	裏すす病(3)
針葉樹	がんしゅ病(4), フォモプシス胴枯病(4), フォモプシス枝枯病(4)	ヒュウガミズキ	黒やに病(3)
ストローブマツ	葉さび病(2)	フジ	斑点病(3)
ズミ	さび病(2)	ブナ	こぶ病(6)
ソウシンジュ	円星病(3)	ボケ	すす紋病(3)
タブノキ	さび病(2), 白粉病(3)	ポプラ類	さび病(2)
ツツジ類	葉斑病(3), もち病(6)		白紋羽病(1), 紫紋羽病(1), 白絹病(1), 炭そ病(3), とうそう病(3)
ツバキ	炭そ病(3), もち病(6)		ペスタロチア病(3), 輪紋病(3), 輪斑病(3), 紅粒がんしゅ病(4), 黒粒枝枯病(4), レウコストマ胴枯病(4), フォモプラス胴枯病(4)
テーダマツ	紫紋羽病(2)	マサキ	ふらん病(4), ギグナルディア胴枯病(4), ネオファブラエア胴枯病(4), 葉ぶくれ病(6)
トドマツ	こうやく病(4), 胴枯病(4)		うどんこ病(2), 炭そ病(3), とうそう病(3), 褐斑病(3), 灰斑病(3)
トネリコ類	紅粒がんしゅ病(4)	マツ類	灰色こうやく病(4)
トベラ	すす病(2)		葉すす病(3), すす葉枯病(3), レウコストマ胴枯病(4)皮目枝枯病(4), 立枯病(5), こぶ病(6)
ナシ	赤星病(2)	マユミ	胴枯病(4)
ナシ科樹木	ごま色斑点病(3)	ミツマタ	白絹病(1)
ナツグミ	褐色こうやく病(4), 灰黒色こうやく病(4)	ミヤマザクラ	ふくろ実病(6)
ナナカマド	赤星病(2), レウコストマ胴枯病	ミヤマビャクシン	さび病(2)
ナラ類	ならたけ病(1), 円星病(3), すす葉枯病(3), 黄色胴枯病(4), 白点胴枯病(4), 葉ぶくれ病(6)	モクマオウ	くもの巢病(5)
ナワシログミ	こはく色こうやく病(4)	モチノキ	黒紋病(3)
		モッコク	炭そ病(3)